

専門分野

母性看護学

講義 4 単位・ 実習 2 単位

1. 母性看護学の考え方

母性看護学は、看護の対象である人間を母性の側面からとらえた学問である。母性の本質は生命の創造と育成であり、女性とその家族は社会の中に存在・生活し、成長・発達している。

近年、女性のライフサイクルにおいて人生の価値観や性のあり方が多様となり、親子・家族関係が複雑化している。その中で、女性や子どもの福祉・健康が脅かされる危険性が増してきている。また、生殖補助医療技術の進歩はめざましく、先端医療の恩恵を受ける女性が増加する中、生命に対する価値観も多様化し、生命倫理上の問題や身体への侵襲・精神的負担など、健康面に大きく影響している。このような背景の中で、次世代が健康に生まれ、より健康に育むための母性支援が必須である。母性看護学では母性の基盤となる概念を理解した上で、女性のライフスタイルや役割の多様性・医学の進歩・少子化・生活環境の変化などの広い視野に立ち、女性の一生を通じて健康の保持・増進、生活の質の向上を支援する看護の役割を学ぶ。さ学生自らの母性性父性性の成熟と生命を尊重する態度を養う。

2. 目的

女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康の促進に向け、看護が必要な状況や援助方法について学ぶ。

3. 目標

- 1) 母性の特性および母性を取り巻く社会の現状を理解し、母性看護の意義と役割がわかる。
- 2) ライフステージ各期の対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
- 3) 女性のライフサイクルにおける母性の健康と発達課題を理解し、看護の必要性がわかる。
- 4) リプロダクティブヘルス・ライツの観点から、人間の生命や健康にかかわる倫理について考える。
- 5) 周産期における母子の健康状態を理解し、看護実践能力を身につける。
- 6) 自己の母性（父性）を認識し、自己概念を発展させる。